



Via Latina 22

2023年6月 322号

総本部よりのお知らせーマリア会

インドのマリア会員の集会	1
シャミナード国際神学校での奉仕職選任式	5
2022年～2023年、非公式教育事業の統計	5
福者Adèle de Batz de Trenquelléonと共に 「統合されたエコロジー」に向かって	6
祈り	7

インドのマリア会員の集会



会議場兼聖堂は学生修道院の共同体のメンバーによって
相変わらず丁寧に飾られた

先月、5月18日から21日にかけてインド従属地区のマリア会員は臨時集会のためバンガロールに集まりました。70名以上のマリア会員と共に、USA管区の管区長、Oscar Vasquez師と副管区長、Bernard Ploeger士、またマリア会総長、André-Joseph Fétis師と教育局長、Michael McAward士が出席しました。



集会には70名以上のマリア会員が参加した

この集会の目的は、すでに数か月に渡って進行中だった検討とステップを通して、インド従属地区がマリア会において「地区」となる準備を行うことでした。この集会の開催は、このような移行に必然的に伴う課題、またインドにおけるマリアニストの生活と福音宣教の最も可能性のある未来を確かなものとする方法について、意義ある対話、考察、そして話し合いを活性化させることによって、インド地区にこのプロセスをオープンにするとともに兄弟的な雰囲気をもたらしました。



**いくつかの小ディスカッショングループで、
私たちの共通の使命について考える**

この集会のセッションは、オープンでたっぷり時間を取った分かち合い、グループ討議、そして有意義な祈りの時間を考慮に入れていました。従属地区のメンバーは考察のための話題を発表するよう指名されていました。総本部とアメリカ管区本部も同様に、この進行中のプロセスのため、またすべての会員の充実のために、情報や助言を提供しました。いつものように、祈りと典礼は活気があり、良く準備されていました。



Sukrit Tirkey士が全ミーティングで「司会」を務めた

取り扱われた話題は、国全体、および教会の両面における、インドのユニークで、豊かで、複雑な現実を検討するものでした；すなわち、この広大な多様性のただ中での兄弟的一致への呼びかけ；マリアニストの混合構成の賜物；共同生活と私たち共通の福音宣教活動；インド内での、またインド地区が捧げるマリア会全体の奉仕においての、新しい任務についての見通し、などです。分かち合いと話し合いは全員の参加を促し、この集会において重要な役割を果たしました。



スピリットあふれた典礼

全員が、率直で創造的で希望に満ちた対話であったこととともに、直面する数多くの課題を詳しく調べる機会になったことを前向きに評価しました。この集会の最後、評価の際に、出席者の多くが、共通のビジョンをもって、また私たちのマリアニスト召命を十全に生きるべく深い決意をもって前進する機会になったことに対して深い感謝を表明しました。



学生修道院の共同体のメンバー
総本部・管区本部の会員とともに

来るべき年を通して、インド従属地区評議員会は、総本部およびアメリカ管区本部との対話を継続しつつ、このテーマに関して従属地区のメンバーと共に作業を継続します。最終的には、従属地区評議員会が正式に総長に要請し、総長は、総長評議員会の同意のもとに、インド地区創設を發布することが期待されています。このプロセスは2024年5月までに完結される予定です。



総本部・管区本部のメンバーに、同伴のお礼として
ショールや花輪をプレゼント

私たちは、USA管区とインド従属地区と共に、神のお恵みによってこれまでの年数を経てマリア会の福音宣教が成長し成熟したことに喜びたいと思います。私たちは、この従属地区の集会で始まり、来るべき準備の年を通して継続するこの重要なプロセスを、常に注意深く見守ってくださる私たちの母マリアに委ねます。インド従属地区で始まった地区への移行のよい働きが、これからのインド地区において実を結びますように！

シャミナード国際神学校での奉仕職選任式

5月26日、Via Latina 22の柱の聖母聖堂において、奉仕職の選任式が行われました。総本部と神学校、2つの共同体がこの選任式に出席しました。3名の神学生が奉仕職を拝命しました：祭壇奉仕者として、Messi Loubiya(Congo-Brazzaville)とShowrraiah Ravulapalli (India),そして朗読奉仕者として、Claudel Noël(Haiti-Ivory Coast)です。総長、André Fétis師が選任式を執り行いました。朗読奉仕職と祭壇奉仕職は信徒の奉仕職ですが、教会はこの2つの奉仕職を司祭職への養成課程の中に入れていきます。André Fétis師はその説教の中で、この新任の奉仕者たちに対して、神のしるしと新しさに開かれた“探し求める”姿勢で、また奉仕の精神で生きよう求めました。



左より：M.A.Cortés師、M.Loubiya士、J.L.González師、A.J.Fétis師、
Claudel Noël士、S.Ravulapalli士とF.Bini士

私たちはこれら3名の兄弟たちが歩んでいる養成過程を神に感謝します。私たちは、この三名の新学生が受けた召命に応えながら成長をし続けるよう、聖霊とマリアの母としての愛に委ねます。

2022年～2023年、非公式教育事業の統計

先月、私たちは世界においてマリア会によって行われている教育事業に関する統計データを発行しました（小学校、中学校、高等学校、大学）。しかしながら、私たちはそれぞれの国で認められた教育施設で行われている十分に組織化されたこれら活動に加えて、公式な教育システムの域外で行われている重要な教育活動があるのを知っています。現時点で、これら非公式教育活動の証しとなるマリアニストが主導するいくつかの活動があります。それらの活動は、様々な理由（社会的、経済的、そして政治的）で公式な教育から締め出されている人々に教育を提供することを意図しています。これら活動の中で、教育的な性格を十分にもつものを下記に提示します。

行政単位	全事業	全生徒数	男性徒	女性徒	教師数	信徒/修道者 教師
オーストリア	1	70	35	35	26	25 / 01
インド	4	259	150	109	21	13 / 08
スペイン	3	323	162	161	34	29 / 05
ラテン・アメリカ	12	557	350	207	311	287 / 24
合 計	20	1209	697	512	392	354 / 38

その名称が示しているように、これら非公式教育活動の全体像は必ずしも明確ではなく、従ってその領域を確定することは容易ではありません。それでも関心を持ち、この種の統計を公表しようとする努力は、このますます成長する私たちの福音宣教の領域に関するさらに正確な知識と評価を得ることが出来るようにしてくれます。

福者Adèle de Batz de Trenquelléonと共に 「統合されたエコロジー」*に向かって

2022年7月の汚れなきマリア修道会の総会は、私たちの創立者たちによって私たちに遺されたカリスマは私たちの時代の差し迫ったしるし（課題）、特に「統合されたエコロジー」のそれに応えるという事実を強調しました。私たちの創立者たち、とくに福者Adèle de Batz de Trenquelléonは貧困者の問題を深く気にかけていました。



彼女は、貧しい子供の教育、病人を訪問すること、貧困者を支援することにとっても活発に関わりました。彼女は自分とは異なる社会の階層、特に貧しい人たちに手を差し伸べることに心を配っていました。これら貧困者への彼女の慈善活動は、意義深いやり方で統合されたエコロジーに応えるものです。事実、「統合されたエコロジー」によって、私たちは地球の環境的、あるいは物理的危機を理解するだけでなく、社会的危機をも理解しなければなりません。自然環境の危機に圧迫されて、私たちの母なる地球だけでなく、地球と共に、貧しい人たちも悲鳴をあげているのです。

メール・アデルは両方の視点に関心がありました。次の言葉はアガト・ディシェ嬢に宛てた彼女の書簡からの2つの抜粋です。

“ごく小さな草をよく見てみましょう。それと同じようなものを創れるほどの巧みな人がいるでしょうか。神さまが、一粒の種から殖やすことを可能にされるように、自分の権威によって、一粒の種から殖やすことのできる権能のある人がいるでしょうか。自然界のすべてのものが、神さまの偉大さを公にしています。欠点によって、神さま

の聖なるみ名を冒瀆する材料を、不敬虔な者に提供しているのは、私たちだけではないでしょうか”

(手紙 3、アジャンのマドゥモワゼル・アガト・ディシェ宛、1805 年3 月27 日)

“神の母マリアの愛徳を模範としましょう。マリアさまの模範に倣って、喜んで、すべての兄弟たちの霊肉のために私たちに出来ることをしてあげましょう。”

(手紙 128、アジャンのマドゥモワゼル・アガト・ディシェ宛、1810 年7 月2 日)

- * 統合されたエコロジー：2015年に発布された教皇フランシスコの環境に関する回勅「ラウダート・シ」における中心的な考えであり、「すべてのものはすべてのものと密接に関わっており、無関心でいられるものなど何一つない」という思想が軸となった概念である。

祈り



“イエスを大切になさった母マリアは、今、傷ついたこの世界を、母としての愛情と痛みをもって心にかけてくださいます。その刺し貫かれた心でイエスの死を悼まれたように、マリアは今、貧しさという十字架につけられた人々の苦しみのために、また人間の振るう力によって荒廃させられたこの世界の被造物のために悲しんでおられます。まったく変容にあずかったマリアは今、イエスとともに生きておられ、すべての被造物は彼女の麗しさを歌います。マリアは、「身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた」(黙示録12・1) 女性です。天に上げられたマリアは、全被造界の母であり女王です。復活されたキリストとともにある、栄光を受けたマリアのからだにおいて、被造界の一部がその美の充満に達したのです。マリアは、イエスの全生涯を「心に納めて」(ルカ2・19、51参照) おられたばかりか、今や、すべての物事の意味を理解しておられます。ですからわたしたちは、この世界を知恵の眼(まなこ)で見られるようにしてください、と彼女に願うことができます。”

「ラウダート・シ」 241より



第36回総会（2024年7月）の準備

第36回総会（2024年）：総会の準備に貢献する分かち合いを送ってくださった共同体と私たちの事業体の協働者の皆さんに感謝します。そうするよう準備されている人たちにも感謝します。若者たちの間で活動している私たちに委ねられた宣教活動のために、私たちの共通の考察を豊かにし続けましょう。

最近の総本部通信

- 訃報：11号
- 5月12日：総長回章第4号—第36回総会の招集、総長André-Joseph Fétis師から3カ国語で全ての会員宛て送付

総本部日程

- 6月2日－10日：霊生局長Pablo Rambaud師がアルゼンチンでのCLAMAR会議に出席
- 6月27日－7月27日：霊生局長Pablo Rambaud師がスペインでのHORIZONSに出席
- 6月28日－7月3日：総長André-Joseph Fétis師と財務局長Michael Award士がUSA管区集会に出席

電子メールアドレスの変更

- Bro. André Brissinger (FR): andre.brissinger221030@gmail.com
- Fr. Mathieu Abou Yapi (IR): abouyapi2021@gmail.com